



令和4年度

日本糖尿病教育・看護学会 学会賞受賞・名誉会員 紹介

賞の種類	氏 名	所 属
功労賞	新良 啓子	独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災看護専門学校
フロンティア賞	橋本 祐子	医療法人社団 亮仁会 那須中央病院
	西村 亜希子	香川大学医学部看護学科
奨励賞	石川 万里子	島根大学医学部附属病院
	脇 幸子	大分大学医学部看護学科
名誉会員	佐藤 昭枝	前 国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院



功労賞 新良啓子様

所 属：独立行政法人労働者健康安全機構
横浜労災看護専門学校

会員歴他：2004年入会
第26回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会会長

【表彰内容】

本学会の評議員を長年務められるとともに、神奈川県において糖尿病足病変看護従事者研修（フットケア研修）のほか糖尿病看護に関する研修会を多数開催するなど、本学会の発展および糖尿病看護の質の向上に多大なる貢献をしてこられました。また、第26回学術集会では大会長を務め、ハイブリッド開催準備を進める中、COVID-19の感染拡大状況を鑑み、急遽完全リモート開催への変更を英断され迅速な対応をとられた結果、約3700人の参加者があり盛会となりました。これら長年の糖尿病看護への貢献は高く評価されるものでありその功労を称えここに表彰いたします。

【お礼の言葉】

この度は2022年度学会賞功労賞を賜りましたこと、誠にありがとうございます。看護師人生の半分を糖尿病看護に魅せられ過ごしました。それは糖尿病看護が、看護の中心概念である看護・健康・人・環境・教育とは何か！を考えるきっかけを常につくってくれたからだと思います。

糖尿病看護を軸に多くの患者さん、臨床や教育の看護師や他の医療職の方々、糖尿病医療を支える方々と知り合い、ご支援をいただきながら、糖尿病患者さんがセルフケアをしやすいように、糖尿病医療を支える我々がもっと知識・技術を身につけ実践しやすいように取り組むことができ、豊かな看護師人生となりました。心から感謝申し上げます。

去年は学術集会を担当させていただきました。準備期間私は単身赴任で仙台におり、開催地の川崎・神奈川では、私が糖尿病看護にはまった20年前から一緒に活動してきた面々が着々と準備をしてくれました。新型コロナウイルス感染症の影響下で開催方法が直前に変更となりましたが、理事会や会員の皆さまのご協力の元、無事開催することができました。ここに改めて御礼申し上げます。

•糖尿病看護・教育の益々の発展を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。



フロンティア賞 橋本祐子様

所 属：医療法人社団 亮仁会 那須中央病院
入会年：2000年

【表彰内容】

本学会のネットワーク委員会の庶務及び関東ブロック委員、栃木県委員を長年務めるとともにネットワーク研修会企画責任者として学会の活動に大いに貢献されました。また、日本糖尿病療養指導士認定機構の講習会委員として多職種への教育にも積極的に取り組んでこられました。さらに、地域の活動では小児1型糖尿病サマーキャンプに参加し糖尿病の子どもたちを支え、疾病の重症化予防に貢献する実践活動をしてこられました。これらの功績は高く評価されるものであり、その労を称え今後ますますの活躍を期待しここに表彰いたします。



【喜びの言葉】

この度は、日本糖尿病教育・看護学会フロンティア賞という大きな賞をいただき、本当にありがとうございます。
約25年前、看護師なのに患者さんが使っているインスリンの打ち方がわからず、困ったことをきっかけに学び始めた糖尿病看護。チーム医療の楽しさを教えてくださった医師やメディカルスタッフに支えられて、CDEJを取得しました。その後は、小さな好奇心を持って一歩踏み出すとまた次の「わからない」が出てくる、この繰り返しで、今は糖尿病看護特定認定看護師として取り組んでおります。さまざまな方々とのご縁をいただき、助けていただきながら活動の輪を広げることができましたことに大変感謝しております。今後も病院内にとどまらず、在宅や施設など、地域の糖尿病ケアチーム連携強化のために私にできることを意識して、日本糖尿病教育・看護の推進が諮れるよう尽力いたします。

フロンティア賞 西村亜希子様

所属：香川大学医学部看護学科

入会年：2011年



【表彰内容】

本学会の編集委員及び日本糖尿病療養指導士認定機構の編集委員として糖尿病看護関連の出版物の質の向上に貢献してこられました。また、あなたの糖尿病教育・看護に関するエビデンスに基づく最適な実践等の研究は、国内のみならず欧州や米国の糖尿病関連学会でディスカッションテーマに採択されるとともに、多くの論文が糖尿病領域、看護学領域の国際的な主要雑誌や書籍で引用されるなど、国際的な場でエビデンスの構築に貢献されてきました。これら糖尿病看護における先駆的な活動はフロンティア賞として高く評価できるものであり、その労を称え今後ますますの活躍を期待しここに表彰いたします。



【喜びの言葉】

この度はフロンティア賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。誠にありがとうございました。

大学を卒業後、循環器病棟での臨床経験の中でセルフケア支援の重要性を痛感し、大学院進学したことをきっかけに糖尿病看護の実践や研究に取り組むようになりました。エビデンスを構築し、糖尿病をもつ方の療養生活をよりよいものにしたいという一心で、QOLや自己管理行動改善に向けた臨床研究を行ってきました。また、エビデンスに基づく、ニーズに応える実践の可能性を模索し、オンラインでのフットケアや、社会活動、地域活動など、様々な形で実践活動にも取り組んできました。このような取り組みを評価していただき、深く感謝申し上げます。

フロンティア賞をいただくことができたのは、糖尿病医療の最前線で臨床や研究に取り組まれている医師、医療スタッフの皆様、学際的な立場からご指導いただきました先生方など、多くの方々のご指導とご支援の賜物です。社会に貢献できる研究とは何かを学ばせていただきました。

この受賞を契機とし、今後も臨床実践と研究に励んでいく所存です。この度は誠にありがとうございました。

奨励賞 石川万里子様

所 属：島根大学医学部付属病院
入 会 年：2004年



【表彰内容】

本学会の評議員および島根県ネットワーク委員として中国・四国地方の糖尿病看護の発展に寄与され、また中国地区看護研修会の中心的メンバーとして尽力されてこられました。現在も同会のサポートや後進の指導を積極的に行っておられます。さらに、糖尿病重症化予防（フットケア）研修においては島根県を中心として企画運営に携わり講師も務められているほか、小児1型糖尿病支援として毎年サマーキャンプに積極的に関わり看護の質の向上に尽力されています。これらの活動とその労を称え 今後ますますの活躍を期待しここに表彰いたします。



【喜びの言葉】

この度は名誉ある賞をいただきありがとうございます。

先輩方のパッションあふれる背中や教えによる導き、友人らとの学びと繋がりに支えに支えられて、今の私があります。心より感謝申し上げます。

糖尿病看護と出会う前、「指導」「教育」という言葉がしっくりこず、苦手意識もありました。しかし、日々糖尿病患者さんから教えていただくことがとても多く、お返しするためにも勉強しなくてはと糖尿病看護の世界へ導かれました。患者さんと話し始めると、患者さんなりに様々なことを考え実施されていることを知り、驚きの連続でした。指導するのではなく、患者さんの伴走者になるのだと教えられました。

この学会で先生・先輩方の患者さんに寄り添う看護の実践を拝聴し、益々魅力に取りつかれました。患者さんのありのままを見る、という視点は、何より私自身の人生を助けてくれました。

学会でのお仕事は、この学会のお陰で勉強できたことへの感謝、恩返しのため精いっぱい努めさせていただきました。未熟でしたが、たくさんの方々との出会いが財産になりました。これからも糖尿病看護ネットワークを広げ、楽しさを共有していきたいと思っております。

奨励賞 脇 幸子様



所 属：大分大学医学部看護学科
入 会 年：2004年

【表彰内容】

本学会における編集委員会専任査読委員や学術集会企画委員、糖尿病重症化予防研修への協力とともに学術集会発表や論文投稿などを通じて、糖尿病看護の質の向上にかかわる活動に貢献してこられました。また、大分県地域における療養指導士研修会立ち上げや日本糖尿病協会豊の会、サマーキャンプへ積極的に参画され糖尿病看護発展のため活動されました。これらの活動とその労を称え今後ますますの活躍を期待しここに表彰いたします。



【喜びの言葉】

この度は、奨励賞という身に余る光栄な賞をいただき誠にありがとうございます。

私は、これまで看護教員、大分LCDEとして、糖尿病予防・医療の推進活動を続けてきましたが、これらの地道な活動をこのような形で評価していただき、深く感謝申し上げます。

活動のきっかけは、臨床時代の病棟での糖尿病教室開設や友の会、小児糖尿病のサマーキャンプ参加で、糖尿病をもつ人々の力強さと共に、セルフケア支援の必要性を強く感じました。1997年に本学会と出会い、看護実践と研究の共有の場があったことも大きな刺激となりました。そして、1999年にCDEJに先立ち大分LCDE会の設立に関わり、地域連携の必要性を痛感し、現在も大分LCDEとして活動に邁進し、多職種と共に探求し実践と研究の融合を目指して取り組んでいます。

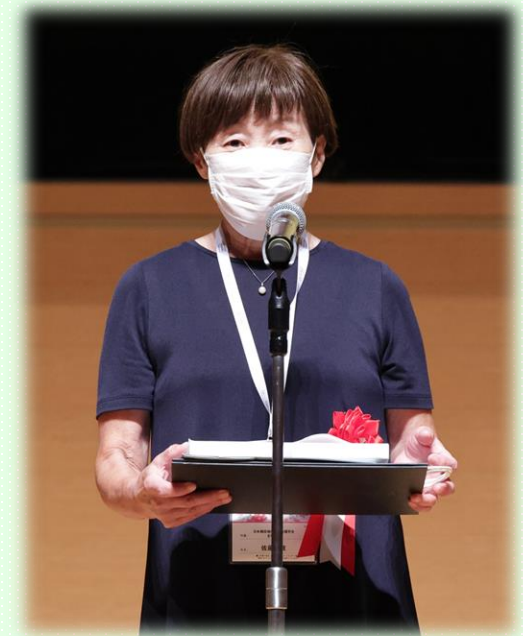
今回の受賞が、これまで共に活動してきた大分LCDEの皆様、地域で地道に活動を邁進されている専門家の皆様の大きな励みとなると信じ、これからも仲間たちと糖尿病予防・医療への貢献ができるように重ねて精進して参ります。今回は、誠にありがとうございました。



名誉会員 佐藤昭枝様

会員歴他：1996年入会

第2回日本糖尿病教育・看護学会学術集会会長



【名誉会員推戴】

一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会は貴方の本学会に 対する多大なる貢献を顕彰し 名誉会員に関する規程第3条に 基づき貴方を本学会の名誉 会員といたします。

【喜びの言葉】

本日、こんなに素晴らしい会場（jaden27大阪）で表彰を受けられることをとても光栄に思います。

昔の話になりますが、今から約28年前に日本の糖尿病看護は標準化されておらず、医療機関がそれぞれ独自の対応をとっているだけでした。そこで『日本の糖尿病看護を何とかしたい』と、思っていたころ前千葉大学看護学部・野口美和子先生（jaden名誉会員）のお声掛けにより、前東京大学の川田智恵子先生、故・兼松百合子先生と前平塚共済病院の佐藤との4人で、糖尿病看護のこれからについて話し合いを行いました。当時は私たちも若かったので、何度も何度も熱く語ったものです。そして、1996年10月に日本糖尿病教育・看護学会が発足いたしました。記念すべき第1回の日本糖尿病教育・看護学会学術集会会長は野口美也子先生でした。そして第2回の学術集会会長を私が行うことになりとても大変な思いをしましたが、今ではとても良い思い出となっております。その後、16年間は、当学会の理事として活動をさせていただきました。

今回、私が表彰されたのは、私の力だけではありません。直接的に、また間接的に私を助けてくださった沢山の方々のおかげです。心から感謝申し上げます。

この学術集会のテーマでもあります「VUCA」という難しい時代となり、糖尿病教育・看護も大変かと思います。しかし jaden27大阪に参加して、皆さまの熱意を拝見し安心していられると感じました。

最後に、日本糖尿病教育・看護学会のますますのご発展、皆さまのご活躍を心からお祈り申し上げます。私も陰ながら応援させていただきます。どうもありがとうございました。



理事長 祝いの言葉

理事長：正木治恵
※表彰者決定時の理事長



【祝いの言葉】

本日ここに本学会より功労賞、フロンティア賞、奨励賞を授与できましたこと、嬉しく思います。

授与された皆さま、本当におめでとうございます。

表彰状の内容を読み上げさせていただき、まさに各地で、ご自身の地で糖尿病教育・看護を実践し、盛り立て、そして仲間を増やしながら貢献されてきた様子が伝わってきました。表彰された方々をはじめ本学会ではそのような意思を持って現場で貢献する、それは臨床現場のみならず教育研究の場でもあり、そのエネルギーと熱意でこの学会が発展してきていると思います。

あらためて、本日表彰された方々にお祝いを申し上げるとともに今後のご活躍を期待しております。

そして、本日、佐藤昭枝氏を名誉会員に推戴することができました。

佐藤先生は、本学会がまだ設立していない頃、どういう学会に組み立てていくべきか、この学会は何を大切にし、どんなことを伝えたいためにこの学会を作るのか、初代理事長の野口先生たちと、現場の声を踏襲していただきながら、考えていただきました。今この学会があるのは佐藤先生はじめ名誉会員の先生方のご尽力の賜物と思っております。名誉会員になられました佐藤先生には、これからも本学会を見守っていただけますと幸いに存じます。



令和4年度

日本糖尿病教育・看護学会 学会賞受賞・名誉会員



左から

脇幸子氏・石川万里子氏・佐藤昭枝氏・正木治恵理事長・橋本祐子氏・西村亜希子氏・表彰委員長
(金子)